

『クスノキの番人』



一般書
東野圭吾／著
実業之日本社

『逆ソクラテス』



一般書
伊坂幸太郎／著
集英社

『世界一美味しい手抜きごはん』



一般書
はらべこグリスリー／著
KADOKAWA

『たまねぎとはちみつ』



児童書
瀧羽麻子／作
今日マチ子／絵
偕成社

『JR私鉄全線地図でよくわかる鉄道大百科』



児童書
JTBパブリッシング／[編]
JTBパブリッシング

『おぼけのばあ』



絵本
せなけいこ／さく・え
KADOKAWA

募集中

書棚の整理や本の修理をお手伝いいただける
図書ボランティアを募集しております。
詳しくはお問い合わせください。

甲 中央公民館 冨 教育課 社会文化班 ☎83-3010

おすすめ新着本

『木になった亜沙』



今村夏子／著 文藝春秋

著者は、「むらさきのスカートの女」で芥川賞を受賞し、この作品は受賞後の最新刊となります。誰かに食べさせたい、その願いが叶って木に転生した亜沙は、わりばしになって…さてここからどんな物語が展開されていくのでしょうか。独特の世界観に、読んだ後、世界の色が違って見えるかもしれません。

『字のないはがき』



向田邦子／原作、角田光代／文
西加奈子／絵 小学館

読み聞かせの達人が選ぶ「親子で読んでほしい絵本大賞」受賞作です。直木賞作家、故・向田邦子のエッセー（同タイトル）を原作として戦時中の家族の愛情が描かれています。角田光代が文を、西加奈子が絵を描きました。両者とも人気がある直木賞作家の渾身の絵本は、真っ直ぐ心に響きます。

町史編さん

調査余話 (33)

『明治を彩る坂下の名家』(2)

陶朱閣より

前回、明治25年(1892)発行の『陶朱閣』を取り上げました。戊辰戦争を経て、政治・教育・産業など様々な分野で近代化が進む中、周辺部の農村との深いつながりの中で越後街道の宿場町として栄えた坂下宿の様子を知ることができました。

今回は、この番付にある人達と当時の繁栄とその背景を考えてみます。『会津坂下町史第3巻通史編Ⅲ近代・現代』(参照)

明治23年に発行された「坂下町農業備考」によると「本町は戸数ほとんど七百戸内外の市街にして、その生活の現状は相錯雑し、半商半農にして」「兼業者は商工業等他に幾分の増収あるをもって、其の活路の状況は前者(専業農家)に比すれば優れり」「本町は生産額多きが為、生糸の売買を営む者多く、且つ、他郡よりも入込み、販売には便利なり。」とあり、生糸産業が隆盛し、兼業でも特に商工業等に経営主体を移

動していったことが知られます。藩政時代からの煙草・薬用人参の製造も引き続き盛んに行われていました。

こうした中で、地方の生活が未だ土地に依存していた明治8年に、町内で1町歩以上を所有していた人は、郷頭であった石本家をはじめ江川清三郎、樋口庄十郎、佐藤清五郎、二瓶宗平(旧下町肝煎)など地元の旧役人層でしたが、『陶朱閣』にある加藤佐蔵(1855～1903)は家貧しく苦勞の中から呉服行商で財をなし、米穀商も行うなど地域一の豪商となったといわれ、明治23年の納税者番付では町内1位になり、34年には加藤銀行を設立しています。江川徳次郎は23年当時田20町歩、畑10町歩を持つ坂下町最大の地主でした。

輸出産業が盛んになったこと、商売を自由に行えるようになったことで、高久学十郎(学之助)、加藤佐蔵、保志小吉(萬願寺屋)、高久源右衛門、小滝清吉、江川清三郎、赤田彦吉等は信用組合の設立や製造業、金融業にも乗り出すなど、地域産業の振興と近代化に貢献しました。

■問い合わせ 教育課 社会文化班

(町史編さん室) ☎83-3010

まちの話題

町監査委員に酒井育子議員(気多宮)を再任

▶ 4月から4年間、監査業務に従事



平成28年4月から令和2年3月まで町監査委員を務められた酒井育子議員が任期満了となり、議会の同意を得て再任されました。

今後も4年間にわたり、町財務の適正管理・効率的な執行の監査業務に従事されます。

・ご寄付ありがとうございます！

JA会津よつば様が副読本を寄贈



写真左より 加藤和弘坂下支店長・原喜代志常務
齋藤文英町長・鈴木茂雄教育長

4月13日、会津よつば農業協同組合より、「食」と「農」に関する副読本120冊が、町内小学校の5年生に寄贈されました。

この取り組みは「JAバンク食農教育応援事業」の一環として、子どもたちが食・環境と農業への理解を深めるきっかけとなることを願い、毎年行われています。この他、同組合は稲作学習の支援なども行い、子どもたちが農作業にふれる機会も提供しています。

▶ 左より 齋藤町長、藤田勝彦坂下コミュニティセンター長、大堀希さんと小野理恵さん



坂下コミュニティセンターが役場東分庁舎へ移転

5月1日より坂下コミュニティセンターは町役場東分庁舎北側へ移転しました。

まちづくりセンターと併設しており、より多くの皆さまにご利用いただきやすくなりました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、坂下コミュニティセンター・まちづくりセンターは休館中ですが、今後利用が可能になった際にはぜひお気軽にお立ち寄りください。

※緊急事態宣言解除により休館期間（5月31日まで）が変更となっている場合がありますのでご了承ください。

☎ 坂下コミュニティセンター ☎83-0522

▶ 待ち合わせやちよつとしたおしゃべりに！飲食可能なスペース完備



齋藤町長のスマイル☺トーク

「稔り多き未来に向け」

田植えを終えたばかりの水田に山々の緑が映り、初夏の爽やかな風が吹く季節となりました。

風に揺れる早苗は、まるで新型コロナウイルス感染症に翻弄され、外出自粛や休校、疲弊する地域経済など、老若男女を問わず戸惑いと不安を抱えている私たちと同じです。

私は、みなさんの小さな努力の一つひとつが、必ず実を結ぶと信じています。弱々しく見える早苗も、やがて大地に根を伸ばし、夏のまぶしい日差しを浴びながら、秋にはたわわに稲穂を稔らせます。

今こそみんなが一丸となって、互いに助け合いながら、稔り多き未来に向け、この難局を乗り越えていきましょう。